

【経済学基礎理論】

問題

以下のすべての設問に答えなさい。

- (1) ある独占市場で、需要曲線が $P=1500-X$ 、独占企業の限界費用が 100 であるとする。ここで P は価格、 X は数量を表すとする。独占均衡における価格と生産量を求めなさい。
- (2) 消費者の行動は「選択問題」であるということの意味について、具体的な例を取り上げて説明しなさい。
- (3) 外部性が存在するとどのような理由で市場の失敗を引き起こすのかについて説明しなさい。

解答例

- (1) 独占企業は利潤を最大化するために、限界収入と限界費用が等しくなるように生産量を決定する。需要曲線が $P=1500-X$ であるので、限界収入(MR)は $MR=1500-2X$ となる。限界費用(MC)は $MC=100$ なので、 $MR=MC$ より、 $1500-2X=100$ となる。これを解いて生産量は $X=700$ となる。このときの価格は $P=1500-700=800$ となる。
- (2) 消費者は所与の資源を制約として効用を最大化するようにさまざまな選択を行う。たとえば、所与の時間(日数)を制約として、労働と余暇に時間(日数)を配分する。そして労働から得られる所得を制約として、消費と貯蓄に所得を配分する。さらに消費に充当する予算を制約として、さまざまな財・サービスに予算を配分する。このように消費者の行動は、さまざまな形で資源の配分を決めるという意味で選択問題である。
- (3) 企業や消費者はそれぞれ自己の利潤や効用を最大化するように行動する。外部性は市場での取引を経ることなく、他の企業や消費者に良い影響や悪い影響を与えることであり、良い影響を正の外部性、悪い影響を負の外部性という。たとえば、企業が工場での生産過程において汚染物を排出する公害により近隣の住民の効用を引き下げた場合を考えよう。これは負の外部性の例である。

完全競争市場における企業は私的な限界費用と価格が等しくなるように生産し、外部性がなければ総余剰は最大化されて市場は効率的となる。負の外部性があると、公害の費用を含む社会的限界費用と価格が等しくなるところで総余剰は最大化されるが、企業は負の外部性を考慮に入れず生産するため、生産量は最適な生産量よりも多くなる。このように外部性が存在すると市場均衡では効率性が達成されず、市場の失敗が生じる。

出題の意図

経済学基礎理論について、ミクロ経済学で重要な消費者行動と外部性の考え方についての理解を問うとともに、独占企業の行動について簡単な計算問題を解くことができるかを問うものである。

【地域経済】

問題

次の設問に解答しなさい。

日本、韓国、台湾などの地方都市の多くでは人口の減少が見られる。こうした地域で産業を活性化させる政策について論じなさい。

解答例

産業の活性化には、下記の通りにいくつかの段階がある。

1. 地域外需・地域外経営資源の搬入
2. 地域内需・雇用の拡大
3. 地域内経営資源の量的・質的拡大
4. 自律的発展

地域産業を活性化するには、1の創業や企業誘致を通じて需要の搬入につなげる段階が必要である。しかし、人口減少する地方都市においては、同時に人材や資金等の経営資源を地域外から取り込むことが重要となる。

そのフェーズがうまくいき、中核となる企業群が競争優位に立つことで、自律的発展が可能となる。人口減少する地域においても、需要、経営資源、企業家に着目した産業政策が基本となる。

出題の意図

地域産業の活性化の在り方の理解を問うものである。